

各地域における森林整備の取り組み

村山地域における荒廃森林の整備について（村山総合支庁）

1. 村山管内のあらまし

平成26年度は、スギ人工林に広葉樹を導入するため整備林「針広混交林整備」1箇所、スギ人工林「長期育成林整備」25箇所、雑木等の里山林「里山林再生」13箇所で行いました。今後の事業実施にあたって、零細な森林所有者が多いため、地域座談会等を通して「やまがた緑環境税」活用事業の更なるPRを図り、森林所有者の協力を得ながら、荒廃した森林の着実な整備をしていきます。

また、補助事業として、西村山地方森林組合が長期育成林整備事業に取り組み、西川町綱取地区・岩根沢地区で搬出間伐を実施しています。そのほか、市町村では里山林整備事業（補助）に取り組み、山形市・天童市・尾花沢市では「人と動物との共存林整備」を、東根市では「森林景観整備」を実施しています。

2. 森林の整備状況

2-1 針広混交林整備

写真「大石田町大字横山 地内」

水源かん養などの公益的機能の高い森林を育成のため、スギ人工林に広葉樹の導入するための、強度の間伐を行っています。



整備前



整備後

2-2 長期育成林整備

写真「山形市大字神尾 地内」

スギの植林地で間伐の遅れや雪害木等の被害が見られた。そのような不良木や枯損木の間伐を行っています。



整備前



整備後

2-3 里山林再生

写真「村山市大字河島元杉島 地内」

松くい虫等により、荒廃した森林を整備するため、枯損木等の伐採を行っています。



整備前



整備後

各地域における森林整備の取り組み

最上地域における荒廃森林の整備について（最上総合支庁）

●平成26年度のやまがた緑環境税による森林整備の状況

最上地域では、管理放棄されて荒廃した人工林を整備する「針広混交林整備」を金山町で3箇所、「長期育成林整備」を最上町など9箇所で行いました。また、病害虫などの被害を受けて荒廃した里山林を整備する「里山林再生」を新庄市など13箇所で行いました。

右の写真は、最上町大字満沢地内で実施した「長期育成林整備」の状況です。このスギ林は昭和50年に植栽されてから間伐などが行われなかったため、立木が混み合い、あちこちに雪害を受けて折れた木が散乱するなど、荒廃している状況でした。間伐した後は、林内に光が射すようになり、立木の健全な生育が見込まれます。



整備前



整備後

長期育成林整備の整備状況：最上町



里山林再生の整備状況：真室川町

左の写真は、真室川町大字大沢地内において実施した「里山林再生」の状況です。この里山林はナラ枯れ被害を受けた大径のミズナラが立ち枯れ状態となり、このまま放置すれば道路などに倒れこむ危険性が高い森林でした。このため、倒木による危険性を未然に除去するとともに、森林の若返りをねらいとして、枯れた木を伐採しました。

●全国育樹祭に向けた森林整備の推進

森林景観の整備については、全国育樹祭の開催に向け、国道や県道など、幹線道路沿いの景観改善をねらいとして、最上地域を挙げて取り組みました。この取り組みで、下草などでやぶ状になった森林46haの景観が改善され、道路からの見通しも良好になりました。更に、整備箇所にはPR看板を設置し、県民の皆さまに取り組みの成果を広く周知するとともに、“やまがた緑環境税”が活用された取り組みへの普及啓発を図りました。地域の方々からは「林がきれいになって良かった」などの好評をいただきました。

今後も、地域座談会などを通して“やまがた緑環境税”活用事業の更なるPRを図り、森林所有者の協力を得ながら、荒廃森林の着実な整備を推進していきます。



整備前



整備後

森林景観の整備状況：金山町



“やまがた緑環境税”PR看板

各地域における森林整備の取り組み

置賜地域における荒廃森林の整備について（置賜総合支庁）

森林整備目標達成に向けて

置賜地域では、平成19年度から平成26年度までの8年間で針広混交林整備168ha、長期育成林整備1,257ha、里山林整備1,165haの合計2,590haの荒廃した森林の整備を実施してきました。今年度は、はじめて国庫補助事業を活用した整備にも取り組み、針広混交林整備19ha及び長期育成林整備5ha（森林作業道800m含む）の合計24haの整備を行いました。

長期育成林整備事業（補助）の実施に当たっては、森林組合等の事業主体が森林所有者の要望をとりまとめた『森林経営計画』を策定し、ある一定の面的まとまりをもって計画的に搬出間伐等を一体的に実施していくことが必要なため、森林所有者の方々に『切り捨て間伐』から『搬出間伐』への森林資源循環利用の意識向上を図ると共に、国庫補助事業の活用を促しながら荒廃した森林においても搬出間伐を今まで以上に推進していけるよう働きかけが必要であると考えています。

今後とも地域座談会等とおして、多くの森林所有者の方々に緑環境税の認知度向上と緑環境税を活用した森林整備事業の内容等のPRに努め、荒廃した森林の着実な整備を推進していきます。



地域座談会での説明風景



利用間伐実施状況（南陽市）



整備前



整備後

【針広混交林整備（小国町）】

長期間放置されていたことで、形質不良の木が混み合い、林内が雑然としていました。針葉樹と広葉樹が入り混じった公益性の高い森林を目指し、強度間伐による整備を行いました。



整備前



整備後

【長期育成林整備（白鷹町）】

立木が混み合い、スギが成長不良となっていました。そのため、公益性な機能が維持される健全なスギ林となるよう間伐を実施しました。



整備前



整備後

【里山林再生（米沢市）】

松くい虫被害を受けて枯損した木が多く立っていました。倒木などの二次被害の防止や森林の植生回復を図るため、枯損木の抜き伐りを行いました。

各地域における森林整備の取り組み

庄内地域における荒廃森林の整備について（庄内総合支庁）

○平成26年度に事業体等が行った森林整備の取り組みについて
庄内地域では、管内の森林組合が「長期育成林整備事業」を活用し、277.85haのスギ人工林の搬出間伐及び9,597mの森林作業道の開設を実施しています。

「里山林整備事業」について、4市町で5.7haの森林整備を実施しています。整備の内容としては、酒田市・庄内町・遊佐町が事業主体となって幹線道路沿い等において景観を悪化させている森林の下刈・除伐等を実施し、景観の改善を図りました。



間伐材の搬出状況（鶴岡市）



整備前



整備後

【幹線道路沿いの景観整備（酒田市）】

整備前は、灌木類が繁茂し、幹線道路沿いの景観を著しく悪化させていました。森林の下刈・除伐等の整備後は、見通しも良くなり、景観が改善しています。

また、鶴岡市が事業主体となり、居住地周辺の里山林で、藪化してクマ・サルなどの鳥獣と接触する可能性が高い森林について間伐・下刈等の整備を実施し、林内の見通しの改善を図りました。

○平成26年度に県が主体となって行った森林整備の取り組みについて

荒廃が進んでいる森林のうち、県民生活に大きな影響を及ぼす恐れのある民有林について、森林所有者の方々と森林整備に関する協定を締結し、県が事業主体となり直接整備を実施しています。

その内訳としては、長い間人の手がかからずに放置されてきた人工林について、強度間伐を実施することで広葉樹が入り混じった水源かん養機能等の公益的機能が高い針広混交林へと誘導する「針広混交林整備」1箇所、適切な管理が行われず、生育不良となった森林において間伐等を行い、経済林への再生を目的とする「長期育成林整備」5箇所、また、気象害や病害虫によって枯死するなど荒廃した里山林の再生を図る「里山林再生」を11箇所実施しており、平成26年度は合計17箇所207.3haの森林の整備を実施しました。



整備前



整備後

【スギ人工林の整備（鶴岡市）】

立木が混み合っ、林内が暗く鬱閉した状態でした。そのため、間伐を実施することで、経済林として機能する健全なスギ林となるよう整備しました。